

自選二十三句(2023.4-2024.3)

外園重子

汐の香や弥生深川芭蕉庵
来世は鳥などが良し花祭り
肺葉の奥に緑が充ちてくる
額の花古風な女の立居かな
父の日や頬ずりの髭痛かりし
小さし酸っぱし丹精の庭苺
汗の子の脱皮するりとシャツ脱げり
這ひ転び岩場越えたり滝飛沫く
走り蕎麦トントンと切る無骨な手
秋暑し駅舎に黙す男達

踊の輪遠嶺に小さき柄杓星
新涼や富士に柏手二つ打つ
境川汐充ちてをり返り花
抜歯痕舌に撫づるや地虫鳴く
毛糸編むこの平穩をもて余す
徴兵制無き国に住み懐手
初刷りのまず俳句欄開きけり
藍深き杜氏の仕着せ風花す
旅立ちは「特急赤城」春寒し
春めくや麒麟は空に首を延べ
しらじらと明けて木曾路の山笑ふ
解き放つこころ旅路の春帽子
だらしなく浅蜷舌出す昼厨